

みんなで考えよう

# わたしたちのハコモノ資産について



公民館や集会所、スポーツ施設など、行政サービスを提供する機能を持つハコモノ資産は、老朽化や市民ニーズの変化などにより様々な課題が生じています。  
これからのハコモノ資産のあり方について、一緒に考えてみませんか。

# 広島市にはどれくらいのハコモノ資産があるの？

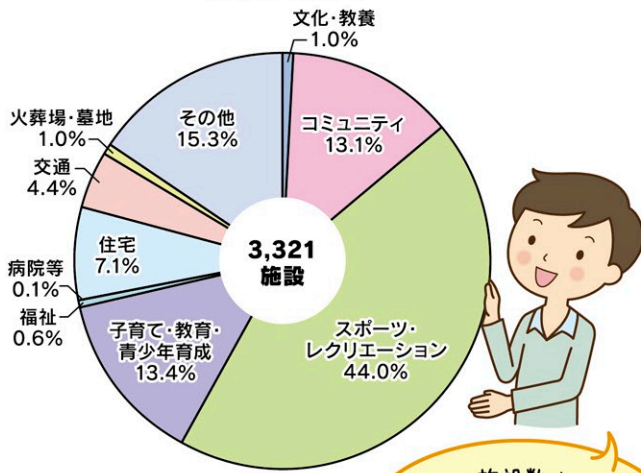
平成28年(2016年)4月1日現在で施設数は**3,321施設**、延床面積は**398万5,239㎡**です。

広島市のハコモノ資産は、その多くが昭和40年代(1965年～)から昭和50年代(～1984年)にかけて整備され、整備後30年から50年もの期間を経過しており、近い将来一斉に更新時期を迎えることになります。

これに加え、少子高齢化の進展などによる人口構造の変化や社会経済情勢の変化を踏まえると、現在の市民ニーズが整備当時から大きく変化しており、そのあり方を改めて見直す必要性に迫られています。

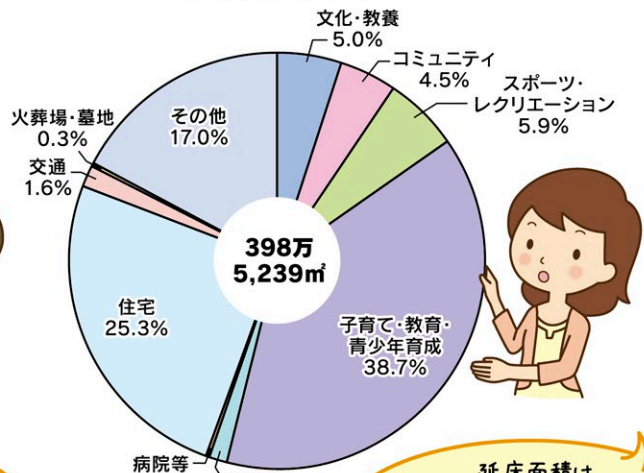
- |                             |                         |                          |
|-----------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 文化・教養…区民文化センター、博物館、図書館など    | 福祉…地域福祉センター、障害者・障害児施設など | 火葬場・墓地…火葬場、納骨堂、墓地        |
| コミュニティ…公民館、集会所など            | 病院等…安芸市民病院、夜間救急診療所など    | その他…市役所・区役所庁舎、消防署、清掃工場など |
| スポーツ・レクリエーション…スポーツセンター、公園など | 住宅…市営住宅、市営店舗など          |                          |
| 子育て・教育・青少年育成…学校、保育園など       | 交通…駐車場、駐輪場              |                          |

〈用途別施設数〉



施設数は  
スポーツセンターや公園などが  
全体の約44%と一番多いね。

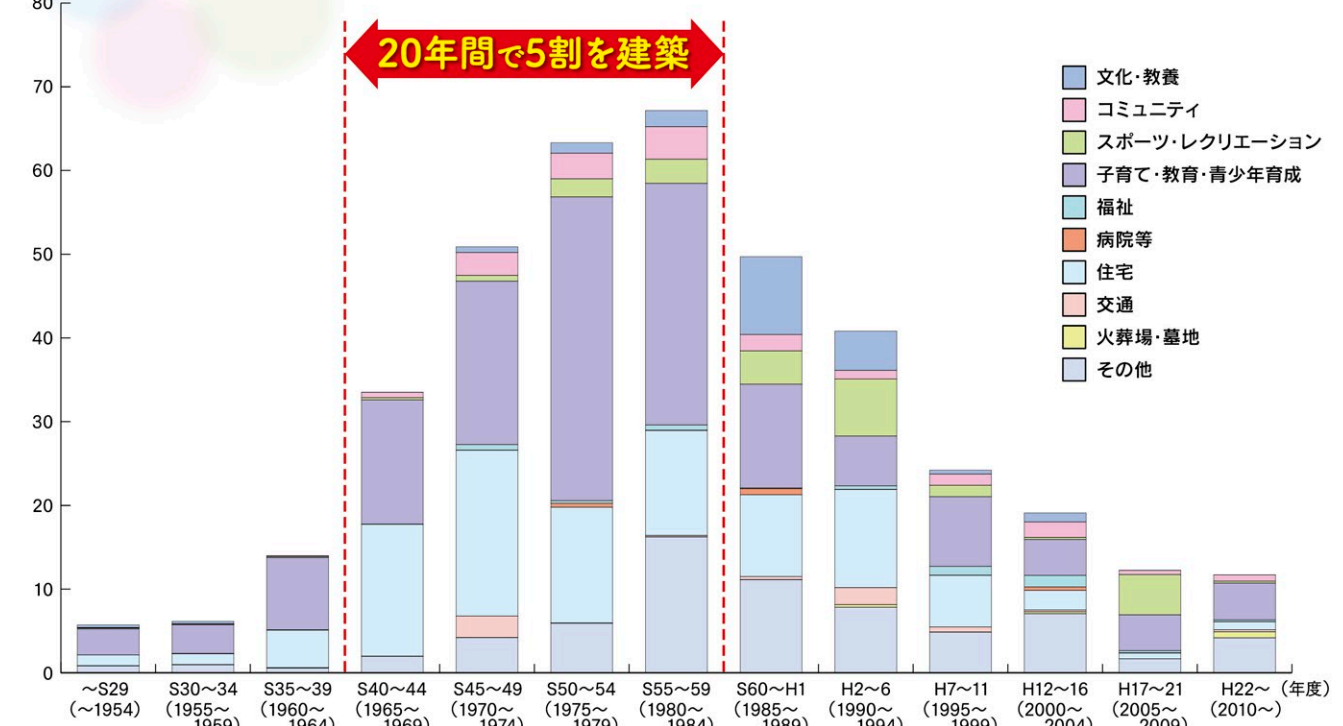
〈用途別延床面積〉



延床面積は  
学校や保育園などが全体の約40%、  
市営住宅が約25%と  
大半を占めているんだね。

(万㎡)

〈年度別建築状況(延床面積)〉



- |       |        |               |              |    |     |    |    |        |     |
|-------|--------|---------------|--------------|----|-----|----|----|--------|-----|
| 文化・教養 | コミュニティ | スポーツ・レクリエーション | 子育て・教育・青少年育成 | 福祉 | 病院等 | 住宅 | 交通 | 火葬場・墓地 | その他 |
|-------|--------|---------------|--------------|----|-----|----|----|--------|-----|

# 広島市の状況は？

## 人口

**119万8777人** (平成28年(2016年)3月末現在)

政令指定都市20市の中では10番目、中国地方では1番の規模を有しています。

■ 年齢3区分別人口 (平成28年(2016年)3月末現在)

老年人口 (65歳以上) **28万2,939人** (23.7%)

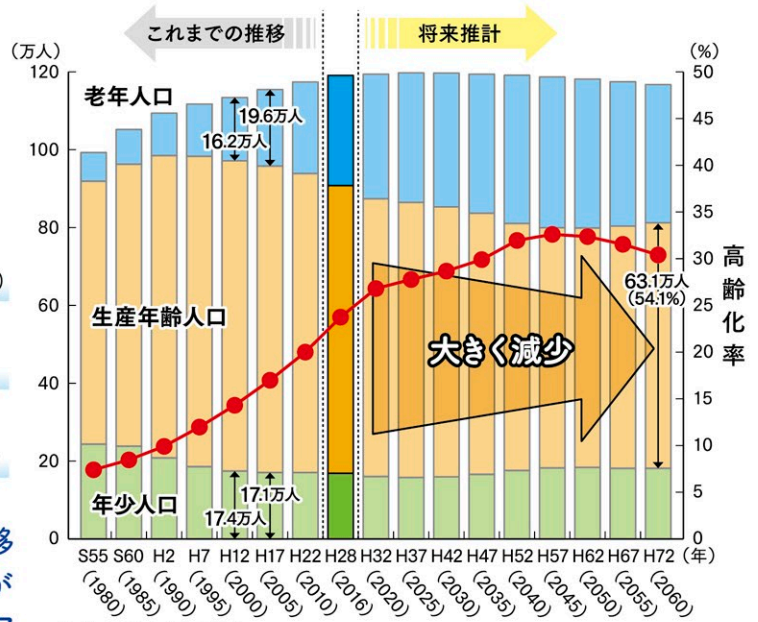
生産年齢人口 (15歳~64歳) **73万9,219人** (62.1%)

年少人口 (0~14歳) **16万8,719人** (14.2%)

老年人口、生産年齢人口、年少人口の推移を見ると、平成17年(2005年)には、老年人口が年少人口を逆転し、この老年人口は、平成57年(2045年)までは増加を続ける見込みです。

平成72年(2060年)には、働き手の主力となる生産年齢人口は63万1千人(総人口の約半数(54.1%))と、現在と比べて大きく減少する見込みで、数少ない働き手が多くの人口を支えていく必要が生じます。

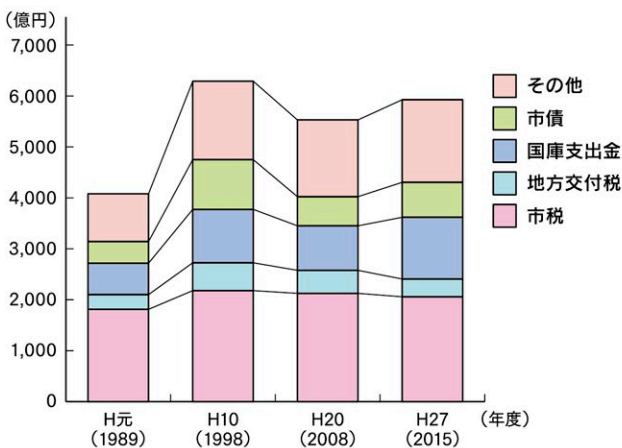
〈年齢3区分別人口の将来展望〉



資料:総務省「国勢調査」、  
広島市「住民基本台帳登録人口(平成28年(2016年)3月末現在)」、  
広島市「世界に誇れる『まち』広島」人口ビジョン」

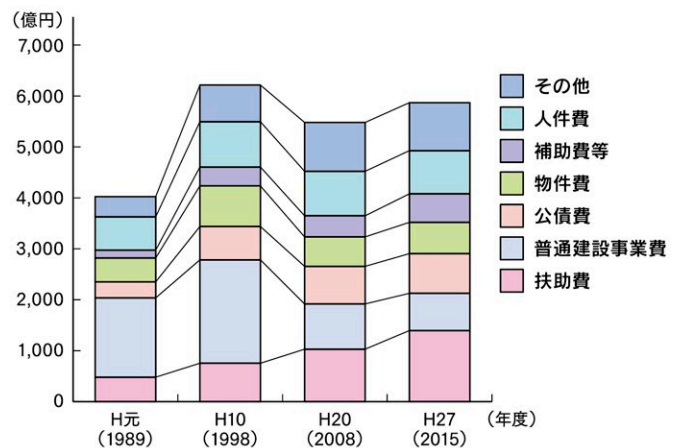
## 財政

歳入 〈一般会計 歳入決算額の推移〉



「市税」や「地方交付税」などの一般財源収入の増加が見込めない状況です。

歳出 〈一般会計 歳出決算額の推移〉



「扶助費」の増加や、「普通建設事業費」の減少が顕著となっています。

今後も厳しい財政状況は続いていくものと考えられ、公共施設等の更新や維持保全に充当可能な財源が大幅に増加することは見込めない状況です。

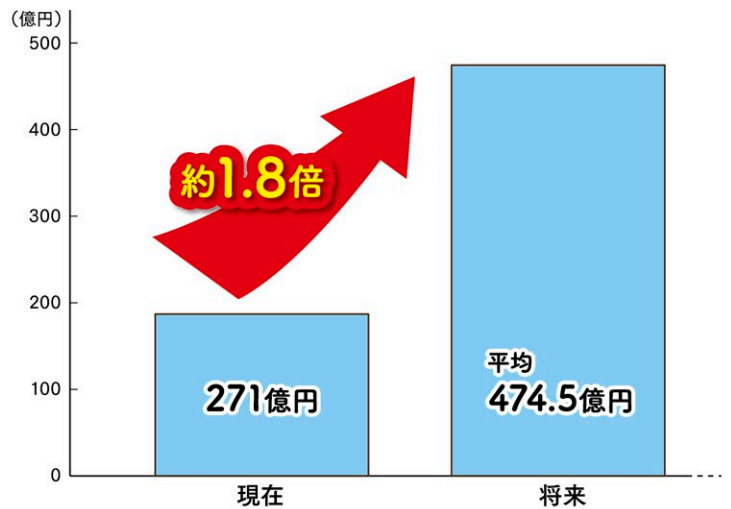
[一般財源収入]:用途が特定されず、どのような経費にも使える収入  
[扶助費]:生活困窮者、子ども、高齢者、障害者などを援助するために必要な経費  
[普通建設事業費]:道路、橋、学校、庁舎など公共施設等の新增設等に必要経費

# なぜ見直しが必要なの？

## 更新・改修をする費用が足りない！

広島市のハコモノ資産を維持し続け、同じ規模や仕様で更新する場合の更新・大規模改修費用を試算したところ、今後40年間で総額1兆8,981億9,000万円、年平均で474億5,000万円にのぼることになりました。これを平成24年度(2012年度)決算額の271億円と比較すると年間で**203億5,000万円**が不足し、現在の経費から**約1.8倍**の額を確保しなければなりません。

このような状況を考慮すると、ハコモノ資産が耐用年数を迎えた際に、その全てを現在と同じ規模や仕様で更新することは不可能です。



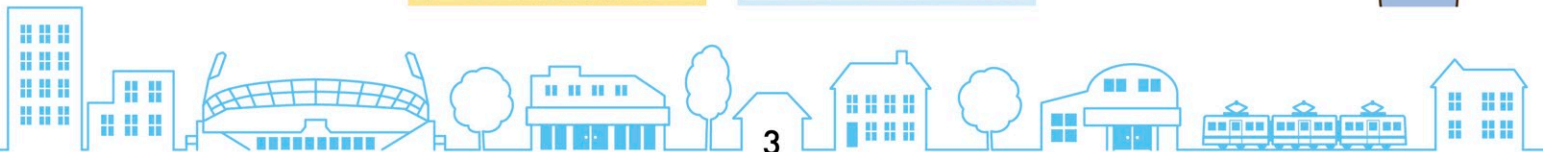
〔現在〕：ハコモノ資産の更新・大規模改修等に充てた各会計の平成24年度(2012年度)決算額  
 〔将来〕：今後40年間で発生する更新・大規模改修費用の推計額の年平均額  
 (注)更新・大規模改修費用の将来推計の試算方法／「広島市ハコモノ白書」の作成時に、財団法人自治総合センターが作成した「更新費用試算ソフト」を使用して、平成26年度(2014年度)から平成65年度(2053年度)の40年間で発生する費用を試算

## サービスが重複している！

広島市のハコモノ資産には、設置目的は異なるものの提供するサービスが類似する施設や同種の諸室(部屋)を持つ施設が多数存在するほか、民間事業者や他の公共団体により、同様のサービスが重複して提供されているといった状況も見受けられ、ハコモノ資産全体の最適化が図られていません。

〈設置目的は異なるものの同種の諸室を持つ施設の例〉

施設	施設数	平均規模	主な諸室 掲載の諸室は一例です。			
			多目的ホール/大集会室	研修室/会議室/講習室	和室	調理室
公民館	71	1,165㎡	●	●	●	●
福祉センター	14	1,190㎡	●	●	●	●
老人福祉センター	3	1,331㎡	●		●	
勤労青少年ホーム	3	1,138㎡	●	●	●	●



# これからどうしていくの？

こうした課題に対応していくため、「広島市公共施設等総合管理計画（計画期間：平成29年度（2017年度）から平成38年度（2026年度）までの10年間）」を策定しました。

ハコモノ資産の更新については、既に建物の耐用年数<sup>\*</sup>を迎えている施設や計画期間内に耐用年数<sup>\*</sup>を迎える施設を中心に、次のようなことを検討していきます。

※建物がその使用に耐える年数。広島市の取組では鉄筋コンクリート造・鉄骨造などの建物は60年、木造・軽量鉄骨造の建物は40年としています。

## 方針1

### 現行の枠組みに固執せず、 施設の機能・サービスの向上を検討します。

少子高齢化の進行などの社会経済情勢の変化を踏まえ、現在の施設が有する機能・サービスにこだわることなく、市民の需要が高いと考えられる機能・サービスを追求し、その向上を図ることを検討します。

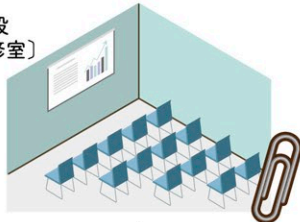
■ 各施設の機能・サービスが適切かを検証し、施設の多機能化や用途変更などを検討します。

〈イメージ〉

A施設  
〔体育室〕



B施設  
〔研修室〕



C施設  
〔集会室〕



市民ニーズを踏まえ見直し

2つの機能を  
集約し多機能化

地域の交流スペースに  
用途変更

利用しやすい  
規模に縮小

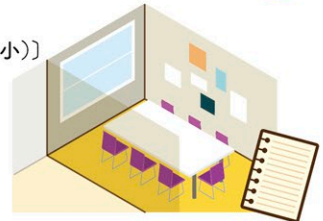
A施設  
〔多目的ホール  
（多機能化）〕



B施設  
〔交流スペース  
（用途変更）〕



C施設  
〔集会室（縮小）〕



■ 対象者が限定されている規制を見直し、より多様な目的での利用が可能な施設に変更することを検討します。

〈イメージ〉

限定的



予約方法・料金体系  
などの見直し

利用者拡大



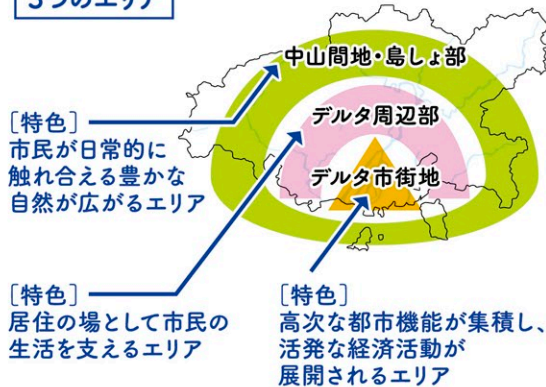
## 方針2

広島市の「まちづくり」等との整合性を図りつつ、  
利用者の利便性等も踏まえ、施設の再配置を検討します。

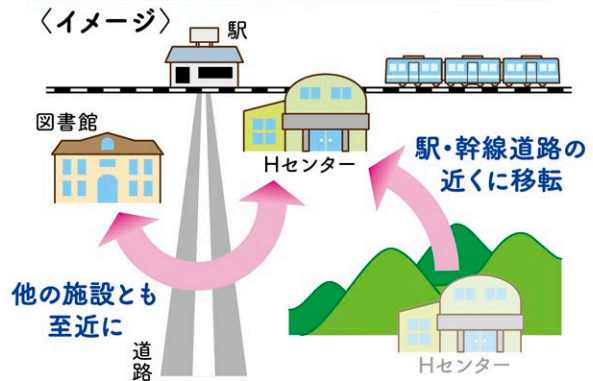
広島市の「まちづくり（デルタ市街地、デルタ周辺部、中山間地・島しょ部の考え方や集約型都市構造の形成等）」や広島広域都市圏の「圏域づくり」との整合性を図りつつ、施設の機能・サービス、利用者の利便性等を総合的に勘案し、最適な場所への再配置を検討します。

■ 「まちづくり」や「圏域づくり」に資する  
場所への配置を検討します。

3つのエリア



■ 住民の交流しやすい場所や交通の  
乗換拠点などの利便性の良い場所への  
配置を検討します。



## 方針3

財政状況を踏まえて、  
種々の工夫を講じながら更新量を調整します。

機能・サービスの維持・向上を図りながら、財政面に配慮しつつ施設を更新するため、施設の複合化、近隣市町や広島県等との連携（施設の共同設置・運営）、民間移管、民間活力の活用などの工夫を講じることを検討します。

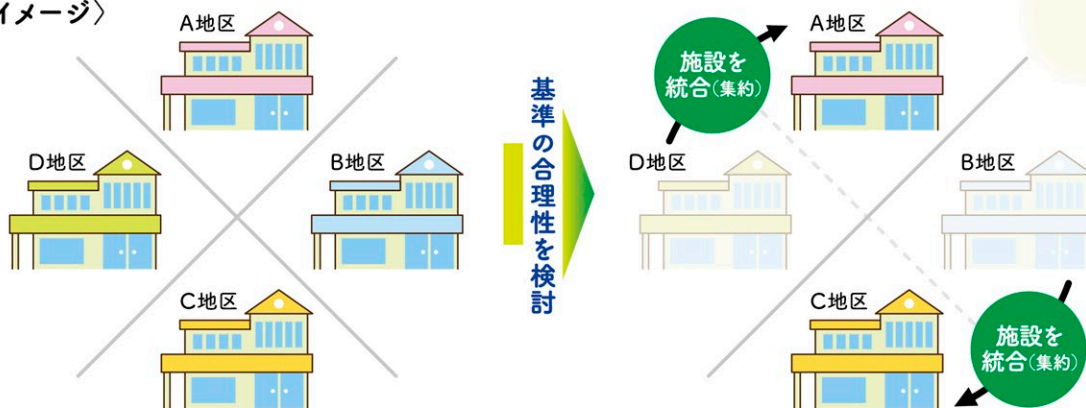
■ 機能・サービスを提供するための専用施設の必要性や、施設の民間移管の  
可能性について検討します。

〈イメージ〉



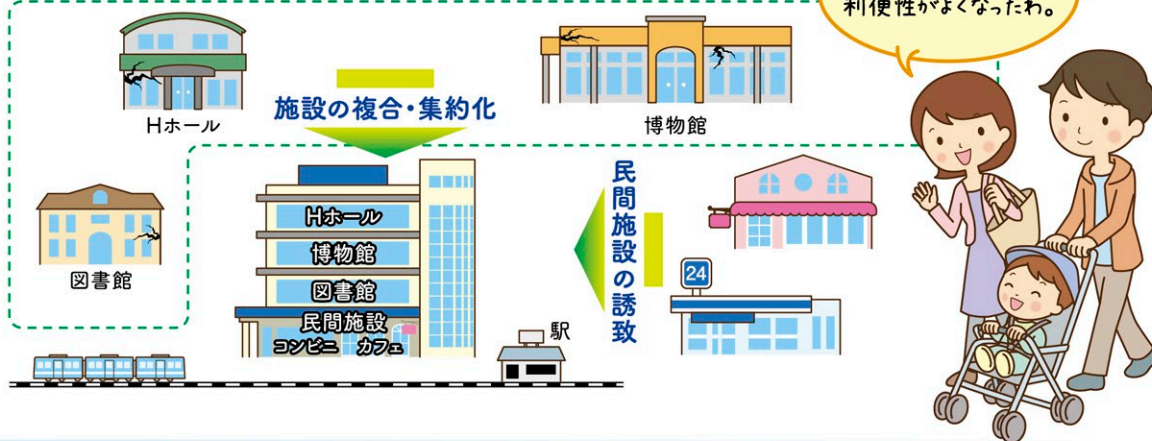
■ 現在の配置基準（小学校区に1館、中学校区に1館、1区1館など）が適正かを検討します。

〈イメージ〉



■ 複数の施設を1つの建物に複合・集約化することにより、地域の拠点性強化や利用者の利便性の向上を図ることなどを検討します。

〈イメージ〉



■ 近隣市町や広島県等の類似施設との役割分担の整理や、施設の共同設置・運営について検討します。

■ 民間事業者のノウハウを活用することにより、サービス水準の向上や経費の削減が期待できる場合などは、積極的に民間活力の活用を図ることを検討します。また、利用者の需要が流動的な施設については、民間建物の借上げなどにより柔軟に対応することを検討します。

〈イメージ〉



# 具体的にどんなふうに進めるの？

例えば

## 公民館、集会所など地域住民の活動・交流拠点の これからについて、住民の皆さんと一緒に考えていきます。

各施設が所在する小学校区や中学校区などで、施設の利用状況などそれぞれの地域の実情に即して近隣の施設との複合・集約化により利用者の利便性の向上を図ることなどを住民の皆さんと一緒に考えていきます。

その際、小・中学校の余裕教室など近隣の既存施設を活用することや、高齢者の利用に供することを設置目的としている施設をより多くの市民が多様な目的で利用できる施設に見直すことなどについて、現在の利用者に配慮した上で検討します。



## そのほか、施設の機能維持と利用者の安全確保のため、 適切な維持保全などに取り組みます。

### 維持保全

ハコモノ資産の老朽化は、じわりじわりと進行しています。日頃の点検などによって早い段階で異常を発見し、手入れをすることで長く使うことができるようになります。市民の皆さんの大事な資産であるハコモノ資産を安全に安心して利用できるよう、適切な維持保全を進めていきます。



### 耐震化

平成28年(2016年)4月に熊本で起きた地震による甚大な被害状況を踏まえて、ハコモノ資産の耐震化について、取組を強化していきます。

### バリアフリー化等

全ての市民が安全で利用しやすい施設となるようバリアフリー化や小・中学校のトイレの洋式化などを進めます。

取組に関する詳しい内容は

広島市ホームページをご覧ください。

広島市 公共施設マネジメント

検索



広島市企画総務局分権・行政改革推進課

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 TEL:082-504-2043 E-mail:gyoukaku@city.hiroshima.lg.jp